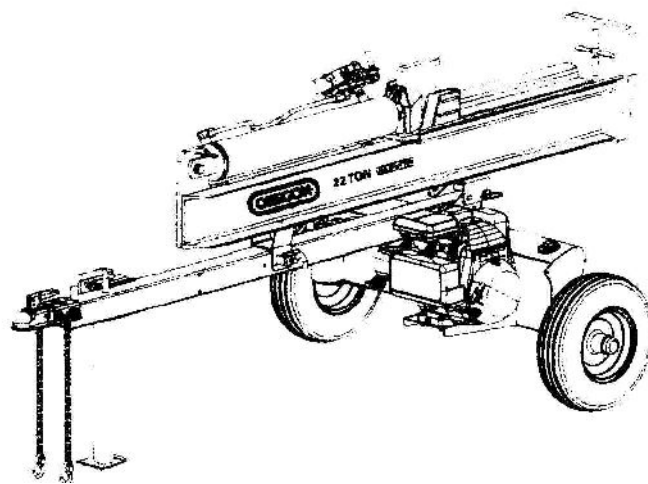
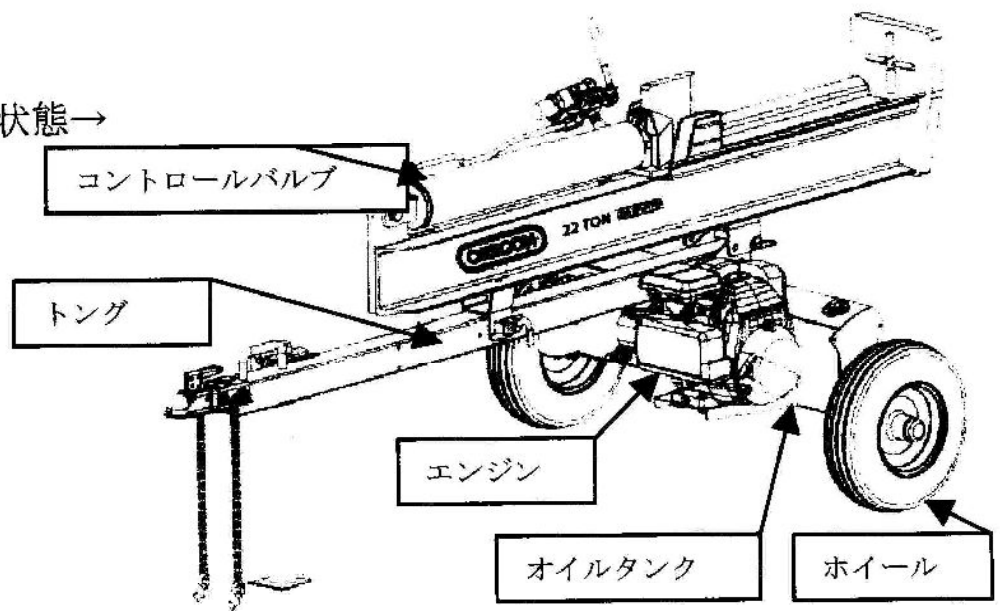


オレゴン薪割機

MODEL NO. S402022H0



ビームを寝せた状態→



5 仕様

	オレゴン S402022H0
長さ×幅×高さ (cm) (ビームを倒した状態で)	241×124×109
最大処理長 (cm)	61
破砕力 (ton)	22
重量 (kg)	218
作動油タンク容量 (ℓ)	24.6
動力	ホンダ GC190

5-2 作動油について

付属の油圧オイル、もしくは、「46 番の作動油」をご使用ください。他の番手のオイルを使ったり、混ぜたりしてはいけません。

▲警告 保管時の注意

- ◇ 長期間使用しないときは、燃料タンクを空にして、屋内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。
- ◇ 薪割機を引火性のガスがたまっているようなところ、または火気や火花が届くようなところには保管してはいけません。
- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。
- ◇ シリンダーは、完全に縮めた状態から、5cmほど伸ばした状態で、保管してください。

10-1 作動油フィルターの変換



初回 25 時間、その後は、100 時間もしくは、3 ヶ月のどちらか早い方毎に交換してください。

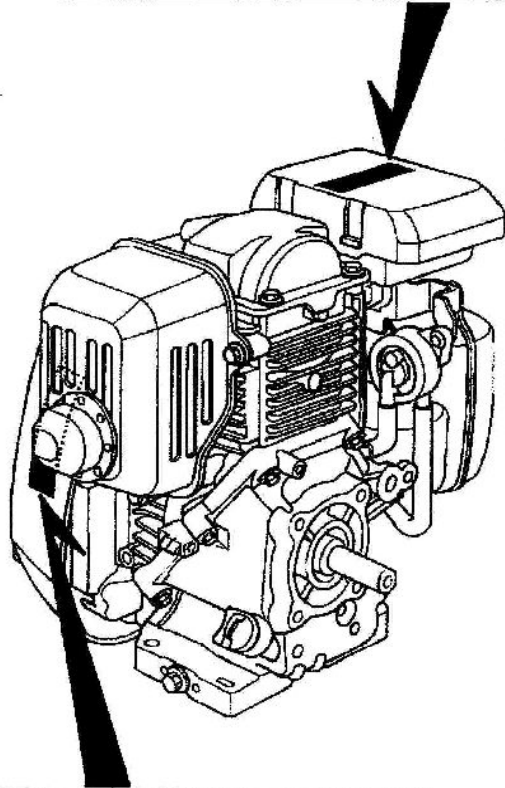
10-2 作動油の補充


定期的に作動油の量を点検してください。作動油がレベルゲージにある刻印の OK の間であることを確認し、足りない場合は補充してください。

10-5 ブリーザーキャップの清掃

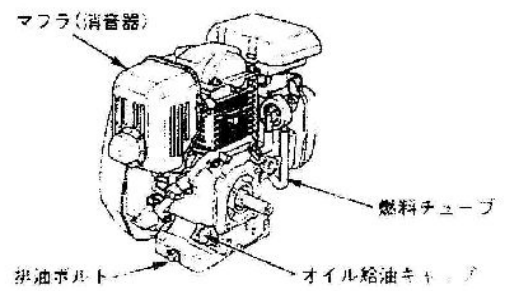
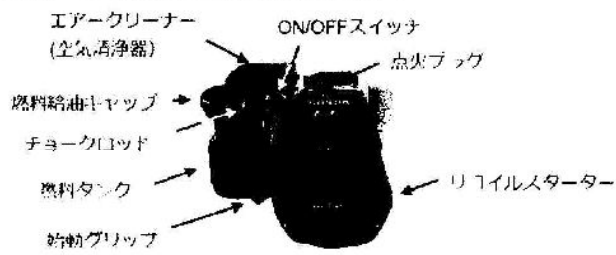
ブリーザーキャップは、25 時間ごとに清掃してください。
ただし、作業環境が悪い場合は、清掃感覚を短くしてください。
ブリーザーキャップをタンクから取り外し、洗淨油か、灯油で洗淨します。

▲ 注意	▲ 警告
 <p>傷害事故防止のため、 運転前に取扱説明書 を読み、理解して正 しく取扱うこと。</p>	 <p>火災や爆発により死傷 するおそれがあるので、 ●給油時にはエンジンを停止 すること。 ●給油口に火を近づけないこと。</p>



▲ 警告	▲ 注意
 <p>排気ガスによる中毒 のおそれがあるので、 換気の悪い所で使用 しないこと。</p>	 <p>ヤケドをする のでマフラーに ふれないこと。</p>

各部の名称と点検箇所



ガソリンの点検

警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

ガソリンを補給するときは

- ・エンジンを停止してください。
- ・火気を近づけないでください。

- ・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。

- ・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

- ・燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

点検

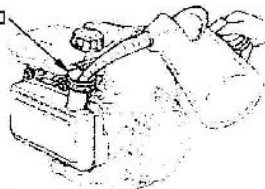
エンジンを水平にし、燃料給油キャップを外し、注入口より燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

タンク容量

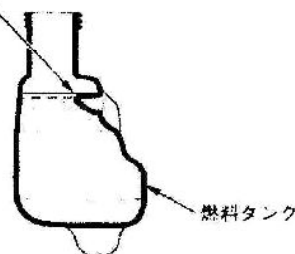
GC135: 1.7 ℓ

GC160: 2.0 ℓ

注入口



給油限界位置



補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

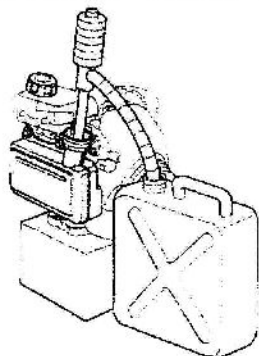
- ・給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- ・補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

取扱いのポイント

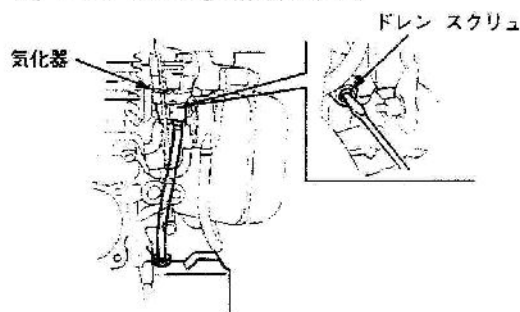
- ・高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

- 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
- 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。

1. 燃料給油キャップを外し、燃料タンク内のガソリンを抜きます。
ガソリンは容器に受けてください。



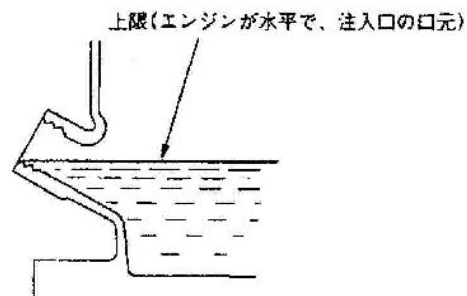
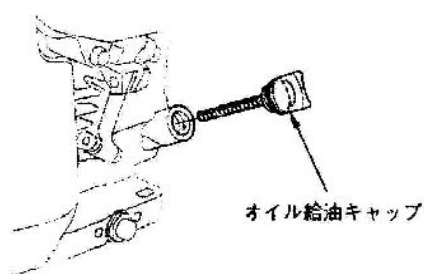
2. ドレン スクリューをゆるめ、気化器内のガソリンを抜きます。
ガソリンは容器に受けてください。
3. ドレン スクリューを締付けます。



エンジン オイルの点検

〈点検〉

エンジンを水平にし、オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



〈補給〉

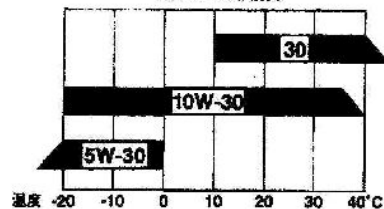
- ・不足している場合は、新しいオイルを注入口の口元まで補給してください。
- ・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は10頁参照)

〔推奨オイル〕(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正 ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルを
ご使用ください。

SAE オイル粘度表



本機使用の推奨温度範囲は、 -15°C ~ 40°C です。

取扱いのポイント

- ・低温時(気温 10°C 以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- ・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

△注意

- ・エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

〈交換時期〉……初回：1 か月目または5時間目運転時、以後：6 か月毎または50時間運転毎
高負荷、高温で使用する場合、エンジン オイルは25時間運転毎に交換してください。

〈推奨オイル〉（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正 ウルトラU汎用 (SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

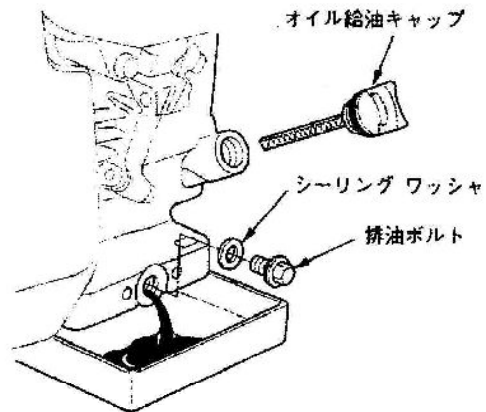
〈オイル容量〉 0.58 ℓ

取扱いのポイント

- ・低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。

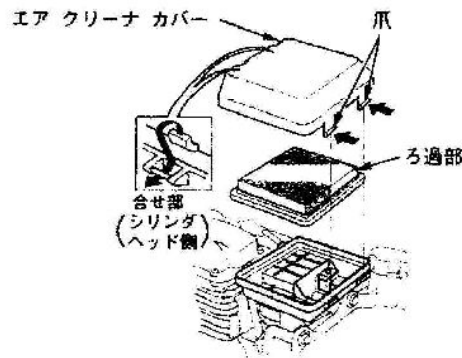
〈交換方法〉

1. オイル給油キャップ排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリング ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



エア クリーナ(空気清浄器)の点検

- ・エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(紙製)が汚れていないか、点検します。
- ・エア クリーナ カバーの取外しは、2つある爪を押して外した後、2つある合せ部(シリンダ ヘッド側)を離して行います。
- ・汚れている場合は清掃してください。(清掃方法は9頁参照)
- ・汚れているとエンジン性能が低下します。



エア クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

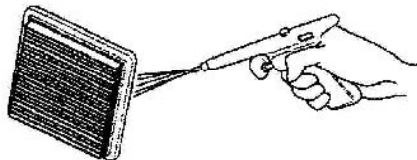
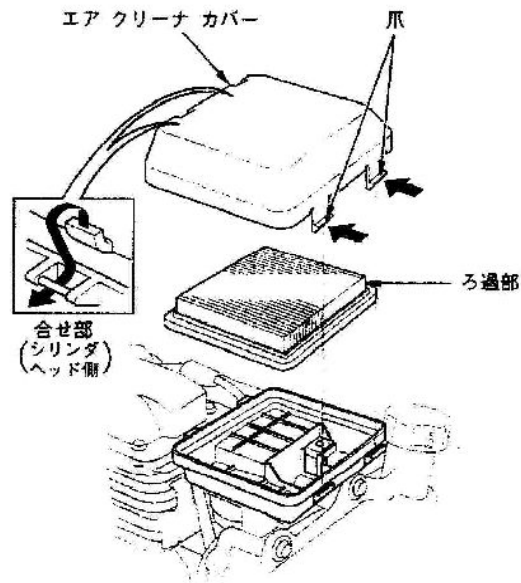
《清掃時期》…… 3か月毎または25時間運転毎

ほこりの多い場所で使用した場合、エア クリーナの清掃は、より頻繁に行ってください。

《交換時期》…… 2年毎または250時間運転毎

《清掃》

1. エア クリーナ カバーを取外し、ろ過部(紙製)を取外します。
エア クリーナ カバーの取外しは、2つの爪を押して外した後、2つある合せ部(シリンダ ヘッド側)を離して行います。
2. ろ過部の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。
3. ろ過部、エア クリーナ カバーを取付けます。
エア クリーナ カバーの取付けは、2か所の合せ部を組付け後、2か所の爪を確実に組付けて行います。



取扱いのポイント

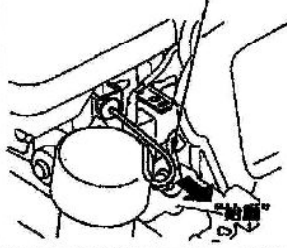
- ・エア クリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。

かけかた

1

チョーク

チョーク ロッド



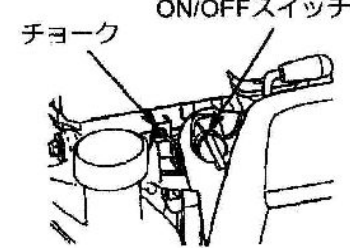
- ・寒いときやエンジンのかかりにくいときにはチョーク ロッドを始動の方向に引きます。
- ・エンジンが暖まっているときは操作不要です。

2

ON/OFFスイッチをONの位置に合わせます

ON/OFFスイッチ

チョーク



3

始動グリップ

始動グリップ



- ・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。始動グリップは図の矢印方向に引いてください。

始動

取扱いのポイント

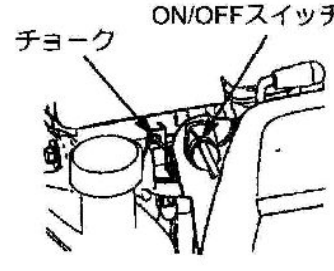
- ・始動グリップを引いたまま手を放さないください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- ・運転中は始動グリップを引かないください。エンジンに悪影響をあたえます。

とめかた

1

ON/OFFスイッチ

チョーク



ON/OFFスイッチをOFFの位置に合わせます

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

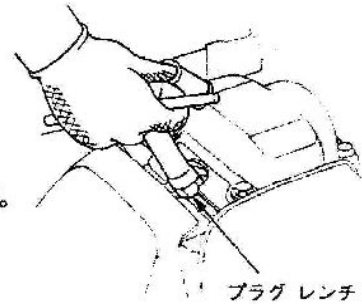
・エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検・調整時期》…… 1年毎または100時間運転毎

《交換時期》…… 2年毎または250時間運転毎

《清掃》

1. 点火プラグ キャップを外して、プラグ レンチで点火プラグを取外します。
 2. 汚れている場合はワイヤ ブラシ等で側方電極部を清掃してください。
- ※プラグ レンチ、ワイヤ ブラシは別売りです。

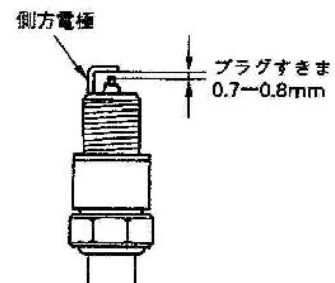


《点検・調整》

・側方電極を曲げて、プラグすきまを下記寸法に調整します。

プラグすきま: 0.7-0.8 mm

取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けます。プラグ キャップを確実に取付けます。



《指定プラグ》

BPR6ES (NGK)

取扱いのポイント

- ・故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
- ・点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

販売店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店で定期的を実施していただく項目があります。お買いあげいただきましたHondaエンジンをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

販売店で実施する定期点検整備項目

- ・吸入、排気弁すきまの点検・調整……………1年毎または100時間運転毎実施
 - ・燃料タンク、燃料ろ過網の清掃……………1年毎または100時間運転毎実施
 - ・燃料チューブの点検……………2年毎実施(必要なら交換)
 - ・燃料室の清掃……………250時間運転毎実施(注)
 - ・アイドル回転の点検・調整……………1年毎または100時間運転毎実施
- (注)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

名称	GC190
全長	345mm
全幅	369mm
全高	331mm
乾燥重量	13.2Kg
形式	4ストローク OHC シングルシリンダー
総排気量	187cc
使用燃料	自動車用無鉛 レギュラーガソリン
燃料タンク容量	1.8L
エンジンオイル量	0.58L
点火方式	トランジスタ式マグネット点火
始動方式	リコイルスタータ